

令和5年度第1回 四国森林管理局事業評価技術検討会 議事概要

1 開催日 令和5年7月20日(木) 13:30~14:30

2 場所 四国森林管理局 6階 研修室

3 出席者

(1) 事業評価技術検討会 委員

高知大学 理工学部 講師 坂本 淳

高知工業高等専門学校 准教授 ガイン デニス (欠席)

森林総合研究所四国支所 産学官民連携推進調整監 伊神 裕司

(2) 森林管理局

森林整備部長、計画保全部長、企画調整課長、計画課長、治山課長、

森林整備課長、資源活用課長

(説明者)

森林整備課 課長補佐、専門官(災害調整)、設計指導官、森林育成係長
路網計画係長

(事務局)

企画調整課 監査官、監査係長

4 議事概要

○完了後の評価1件

・森林環境保全整備事業(嶺北仁淀森林計画区)

委員: 事前評価から10年ほど経過し、B/Cが4.43から2.07となっている。

Cは労務単価等の増とのことだが、Bが減少した要因は何か。

局: 25年度の評価は新たな計画ができた時点での評価となっており、当初主伐で計画していたものが実際には間伐等の増加により、販売ができなかったため、それに伴い便益が減少した。

委員: 路網の規格は林道と林業専用道と作業道と3種類あると認識しているが、資料1に名野谷225林業専用道とあるが、資料2の一覧表では林道となっている。これはなぜか。

局: 事業開始当初は林道だったが、途中から林業専用道の規格で実施した。正確に言えば、資料2も林業専用道で実施しており、同一覧表も「林業専用道」と表記すべきであった。

委員: 整備した12kmのうち専用道と林道の比率はどれくらいか?

局: 名野谷、手箱は林業専用道。どちらかと言えば専用道が多い。

委員: 林業機械の大型化も言われている中で、高規格の道路をとという話も聞いている。森林管理局の林道整備の方向性は気になるところ。

委員: ヒノキ65%は国有林か。

局: そのとおり。

委員: 費用集計表の年度が2058年度で「0」になっているのはなぜか。

局: 路網は耐用年数が40年、事業完了経過後5年で足して45年となってい

る。

委員： インフラ整備等メンテナンス費用は、ある程度経つと大規模な修繕等が発生するかと思うが、これは見ていないのか。

局： 事業評価の計算上は見込んでいない。今後、インフラ整備等の費用や人件費は上がっていくと思われる中でB/Cが出るよう、森林整備と路網修繕費等を考慮した計画が重要である。

局： 評価については、平成26年度～30年度中に実施したものをベースに事業評価期間とその後のメンテナンスを踏まえて評価している。当然、その後のメンテナンスが必要になってくることから、後々この事業等を見直さなければならず、その時はそれがメインの事業として実施する場合もある。そこで道の改修等の事業費が発生するという仕組みになる。

委員： 承知した。

局： それでは、この評価結果案については、「森林整備事業を行うことにより、木材の生産を通じて、地域振興への寄与や森林の持つ公益的機能が発揮されており、今後も評価結果を踏まえた事業の実施が望まれる。必要性、効率性、有効性など評価の観点から妥当なものとなっている。」ということによろしいか。

各委員： 異議なし。